

まえがき

この度、名古屋大学加速器質量分析計業績報告書（XXVI）を刊行する運びとなりました。ご協力いただいた関係各位に深く感謝いたします。

本報告書は、平成 27 年 1 月 27 日～28 日に開催されました第 27 回名古屋大学年代測定総合研究センターシンポジウムと、当センターの平成 26 年度における年代測定に関する装置（タンデトロン AMS ^{14}C システムおよび CHIME）の学内共同利用、教育・研究の成果をまとめたものです。

平成 26 年度は、本報告の「名古屋大学タンデトロン AMS ^{14}C システムの現状と利用 (2014)」および「CHIME の現状と利用 (2014 年度)」で詳細を述べますように、両装置とも概ね順調に稼働し共同利用という本来の役割を務めることができました。そして、主にこれらの年代測定装置の利用成果報告会として開催された定例シンポジウムでは、特別講演 2 件、年代測定装置の現状と利用報告 2 件、研究機関研究員の研究成果報告 2 件、一般講演 2 2 件、そしてポスター発表 3 件と多岐にわたる内容の発表をしていただきました。なお、本報告書には、あわせて 29 編の寄稿があり、そのうち大学院生をはじめとする若手の研究者諸氏からの寄稿が 9 編を数えました。

さて、名古屋大学では、旧核融合科学研究所跡地に主に環境科学に関する研究を行っている研究所・センターを集約し、総合的な学術融合研究を推進するキャンパスプランが進行しています。そして、平成 24 年度に完成しました研究総合棟 1 号館に続き、平成 26 年度予算において 2 号館の施設整備が認められ、年代測定総合研究センターは平成 28 年 3 月にはこの 2 号館に引っ越す予定となっています。そして、さらに第Ⅲ期施設整備計画の申請も予定されております。当センターの主要な研究設備のひとつであるタンデトロン AMS 2 号機は、それが導入されてから 19 年が経過しその更新が急務となっています。そこで、第Ⅲ期施設整備計画にあわせて大学本部と関係部局のお力添えを得ながら、3 号機の導入を目指しております。一方、CHIME 装置は、その本体をなす EPMA JCSA-733 の保守期間が平成 27 年 3 月をもって終了しましたが、修理部品を調達するなどして運用を続けています。そして、学外の組織と研究協力協定を結ぶなど、年代測定を行うだけではなく人的・技術的交流を進めようとしています。

技術革新がめざましい今日においては、新たな年代測定法の開発研究や分析装置の改良をおこなうとともに、次世代研究を担う若手研究者の育成が必要不可欠です。また、他分野との融合研究も本センターの重要なミッションです。年代測定総合研究センターは、これらの推進を目指して研究・教育を続ける所存です。関係各位のなご一層のご支援・ご協力をなにとぞお願いいたします。

(名古屋大学年代測定総合研究センター長 榎並正樹)